［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

評価確定日　平成21年7月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501268
法人名	筑後保健生活協同組合
事業所名	虹の家きなっせ
所在地 （電話番号）	福岡県大牟田市大字吉野1364－1 （電　話）0944－59－9540
評価機関名	社団法人　福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年5月30日

【情報提供票より】（平成　21年　4月　30日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14年　10月　1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8　人	常勤　3人，非常勤　5人，常勤換算　6.8人

（2）建物概要

建物形態	単独／併設	新築／改築
建物構造	木造セメント瓦葺平屋 造り	
	1 階建ての　階 ～　1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	37,200　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　900　円			

（4）利用者の概要（平成21年4月30日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	6	名	要介護2	2	名
要介護3	1	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	82 歳	最低	65 歳	最高	90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人親仁会中友診療所、みさき病院、米の山歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中にある民家を増改築したホームは、違和感なく周りの住宅に溶け込んでいる。最寄りのJR駅から徒歩1分程の所に位置しており、ホーム前の道は通学路として使用され、朝夕学生の声が聞こえてくる。日常生活の中で利用者と職員は共に育ち、利用者のできることを支援している。日課の散歩、地域の夏祭りへの参加、絵画ボランティアの訪問、家族との温泉旅行を行う等、利用者が地域の一員として暮らす支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価での改善課題であった理念については、これまでの理念を見直し「地域の中で家族として暮らす」を挙げている。また、権利擁護に関する家族への啓発では成年後見人制度のパンフレットを用意し、家族の方へ説明を行い、職員へは制度についての学習会をする等、取り組みをしている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価の意義を学習し、全職員で取り組み管理者が集約している。外部評価を受けることで日常の介護を振り返ることができ、見直しや改善をし、利用者へのサービスの質の向上に努めている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

家族会代表、家族会OB、民生員、地区福祉員、地域包括支援センター、市職員の出席のもと2カ月に1度運営推進会議を開催している。外部評価の報告やホームの現状報告を行い、参加者から意見や助言を貰って、サービスの質の向上に活かしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8，9）

ホームの苦情窓口の案内ポスターを掲示している。家族会開催の日程調整をし、年に2回家族会を開催したり、月1回あんしん介護相談員を受け入れたりしている。利用者の生活状況や健康状況等を家族の訪問時、電話、ホーム便りで行っている。家族が要望や意見を言い易いように場所づくりをし、聞いたことを運営に反映している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会へは加入していないが、地域の夏祭りに参加したり、ホーム便りを隣近所に配布している。また、散歩時に近所の庭での草花の観賞をしたり、絵画ボランテイア等を受け入れたりと、地域の人々との交流ができている。

2.　調　査　結　果（詳細）

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、「地域の中で我が家で家族として暮らす」を挙げている。ホーム名の「きなっせ」は「来てよ」の方言であり、地域の方々と交流を多く持つことを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を食堂に掲示している。朝の申し送り時や月に1回の会議時に職員一人ずつに唱えてもらい、全職員の意識付けに取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へは加入していないが、地域の夏祭りに参加したり、ホーム便りを隣近所に配布している。また、散歩時に近所の庭で草花の観賞をしたり、絵画ボランティア等を受け入れたりと、地域の人々との交流ができている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を学習し、理解している。自己評価を全職員で取り組み管理者が集約している。前回の外部評価の結果は運営推進会議で報告し、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、家族会OB、民生員、地区福祉員、地域包括支援センター、市職員の出席のもと2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。外部評価の報告やホームの現状報告を行っている。会議後、出席者は利用者と交流し、利用者の意見や出席者の助言を貰い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市開催の認知症ケアの研修や会議に参加している。サービス提供に関わる相談は電話でアドバイスを受けている。月に1度あんしん相談員の訪問を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前回の評価を受け、成年後見制度についてのパンフレットを家族の方へわかるよう玄関に掲示している。職員に対しては地域包括支援センターの職員に来てもらって学習会を行っている。制度についての理解を深め、利用者の支援に結び付けている。		
４．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活状況や健康状況等、家族の訪問時に説明している。遠方の家族へは電話で連絡をしており、身体状況に変化が生じた場合は、管理者や看護師が電話連絡を行っている。金銭台帳を利用されている方へは家族の訪問時に報告している。職員の異動等については報告するようにしており、外部評価の報告も行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口案内のポスターを掲示し、月に1回あんしん相談員を受け入れている。家族の訪問時には声かけをして要望、意見、苦情等、言い易いよう1対1で話せる機会をつくっている。家族会開催は家族に合わせた日程調整を行い、年2回行っている。行事については年3、4回発行しているホーム便りで知らせている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へ長期的に支援していけるよう最小限の異動になるようしている。職員の交代をする時は、引継ぎ期間を作り利用者への不安を与えないように配慮している。また離職者を最小限に抑えるため、職員間のコミュニケーションを重視しており、この1年間の離職者はいない。		
５．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、性別や年齢等で採用の対象から排除しないようにしている。個々の職員の能力を発揮できるような状況をつくり、職員のスキルアップにも力を入れ、勤務調整や有給休暇が取れるよう配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	協力医療機関での人権学習や、月に1回行われるホーム内学習会の中で人権について学んでいる。また、利用者への声かけの仕方やプライバシーに関して話し合い、利用者の尊厳を大切により良い介護を提供できるよう取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後、現場体験を含めた新人研修を行っている。職員は各種資格取得のため研修に参加し、資格取得した際は、職場会議や朝の申し送り時に報告している。研修参加に対する勤務調整にも柔軟に応じている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は市主催の認知症ケア勉強会に参加して、同業者と交流や情報交換を行っている。他事業所のグループホーム見学も行い、活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり利用するのではなく体験利用が出来るようになっている。利用前は必ず本人、家族から好きな事や嫌いな事、得意な事等を聞き取り、利用開始当初は安心して生活できるよう家族の面会を多くしてもらいつつ、馴染みの関係をつくっている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に食事の準備をしながら料理の味付けを教えていただいたりしている。また野菜作り等、日常生活の中で共に動くことにより「支え支えられ」の関係をつくるように心がけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れたアセスメントを活用し、本人や家族から生活背景を把握したり、日々のかかわりの中でできることや得意なこと等、情報収集をしている。意思疎通の困難な利用者は隣に座ったり、興味のある話をし、思いを汲み取るようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認したり、利用者の得意とすることや日常生活での気づきを全職員で出し合い、月１回の職員会議で介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回行われている職員会議で話し合い、3カ月毎に介護計画の見直しを行っている。心身の状態に変化が生じた時は家族と相談し、介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に沿いながら、外出や外泊などの支援を積極的に行っている。遠方からの家族の訪問には食事を提供し、宿泊も受け入れている。医療機関の受診は必要に応じて行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医による受診支援の他、月に1度協力医療機関による健康管理をしている。24時間対応の協力医療機関と連携し、緊急時の往診による受診の支援を行っている。通院介助前後には家族へ説明を必ず行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族等と重度化・終末期時の同意書を交わしている。これまでに1名の看取りを行ったことがある。体調変化の度に本人や家族等の意向を確認しながらかかりつけ医や全職員で方針を共有し、支援をしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へは目上の人に対しての対応を心がけ、名前の呼び方は本人の希望に沿って呼ぶようにしている。個人情報に関する記録は事務室に保管し、慎重な取り扱いをしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、本人のペースや希望に合わせて無理のないように支援している。思いが伝えられない利用者については、日常的に声かけし、職員が寄り添って希望を汲みとるようにしている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理、盛り付けを利用者と共に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来るよう雰囲気づくりの工夫もしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に添えるよう毎日入浴を行っている。トラブルがないよう入浴の順番や組み合わせなどに配慮し、入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者へは無理せず、安心して入浴できるよう支援している。季節に合わせて菖蒲湯等、入浴を楽しめる工夫を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、洗濯物干しやたたみ、畑仕事等その方の得意とする役割がある。また、絵画のボランテイアがあり、ぬり絵も楽しみにされている。季節ごとの行事や家族との温泉旅行等の支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の体調に応じ近所への散歩を行っている。歩行困難な方も車いすでの外出支援をしている。買い物は希望にそって対応し、馴染みの美容室や食事などの外出は家族にも協力をお願いしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠していない。鍵をかけることの弊害については学習会の中で話し合われ、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。外へ出ようとされる利用者へは一緒に散歩についていっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議を通して地域の方の参加協力がある。非常口、避難場所も各2ヶ所つくっており、消火器の使い方等の訓練も行っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握し、水分摂取もその都度声かけ支援している。バイタルチェック、体重測定、血液検査等で本人の栄養状態の確認をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内の壁面には家族と行った温泉旅行の写真やぬり絵を貼ってある。建物中央に位置するウッドデッキでは、日向ぼっこしながら爪切りをしている。食堂は台所と対面式になっており、ご飯の炊ける匂いや野菜の切る音、茶碗を洗う音など生活感が漂っている。食後は職員による心地よいピアノ演奏があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の間とフローリングの2タイプを用意されている。各部屋は四季折々を感じることができるほどの大きな窓がある。使い慣れたベッドやテーブルが持ち込まれ、洗面台には化粧水などが置かれている。壁に家族の写真や本人が塗ったぬり絵などが貼られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		